

第3回教育委員会定例会議 会議録

- 1 日 時 平成29年3月28日(火)
開会 13時30分
閉会 14時35分
- 2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員(6名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	岡 能 久
〃	河 野 俊 寛
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子

4 欠席委員(1名)

教 育 委 員 早 川 芳 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	浦 世史宏
	担当部長(兼)教育総務課長	山 田 啓 之
	教育総務課課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長(兼)学校職員課長	川 口 勝
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	吉 田 圭 史
	担当部長(兼)学校指導課長	西 川 茂 治
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	堂 岸 豊
	生涯学習部長	川 原 陽 一
	生涯学習課長	小 寺 洋 右
	図書館総務課長	仙 石 正 美
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長	
	(兼)玉川図書館城北分館長	
	泉野図書館副館長	中 坂 暢 江
	玉川こども図書館副館長	池 田 光 穂
	金沢海みらい図書館長	藤 木 由 里
	教育プラザ総括施設長	桶 田 光 一
	(兼)地域教育センター所長	
	文化財保護課長	本 郷 雅 弘

5 案 件

- 議案第7号 金沢市教育委員会職員職名規則の一部改正について (教育総務課)
- 非 議案第8号 金沢市文化財保護審議会の委員の委嘱について (文化財保護課)
- 報告第7号 金沢市立泉小学校新校舎・体育館の供用開始について (教育総務課)
- 報告第8号 平成28年度児童生徒の体力・運動能力調査の結果について (学校指導課)

報告第9号 家庭教育に関する指針及び金沢市家庭教育推進プログラムについて

(生涯学習課)

報告第10号 金沢市宇宙教育推進計画について

(生涯学習課)

その他

(1) 金沢市立工業高等学校の活動状況について(平成28年10月～平成29年3月)

(2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者6名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員として丸山委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第8号を非公開にするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第7号、報告第7号、報告第8号、報告第9号、報告第10号、その他(1)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、4月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第8号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 4月の定例会議の日程：平成29年4月19日(水) 13:30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第7号 金沢市教育委員会職員職名規則の一部改正について(教育総務課)

(説明の概要) 議案書2ページ。今回の改正は、学校運営における校舎管理業務の重要性と担う役割を明確にするため、これまで「校務技士及び校務士」と呼んでいた名称を「校舎管理員」に改めた上で配置することに伴う所要の改正である。具体的な補職名は、「管理校務長」「校務長」をそれぞれ「総括校舎管理長」「校舎管理長」に改めるほか、「主任校舎管理員及び校舎管理員」を新たに設ける。3ページに新旧対照表が記載されている。施行日は平成29年4月1日である。

| (特になし)

○ 報告第7号 金沢市立泉小学校新校舎・体育館の供用開始について(教育総務課)

(説明の概要) 議案書8ページ。平成27年10月に工事に着手した泉小学校と泉中学校の一体的整備について、本年1月に供用を開始した泉中学校の校舎に続き、泉小学校の新校舎・体育館の新築工事が今月で完了し、新学期の4月から供用を開始する。

泉小学校の概要だが、場所は弥生1丁目地内、校舎は鉄筋コンクリート造3階建、延床面積7,530㎡、体育館は鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建、延床面積844㎡。校舎1階には職員室、図書室、家庭科室を配置、体育館の手前には低学年の体育の授業などに使うプレイルームを設けている。2階には普通教室、特別支援教室、特別教室を配置、3階は普通教室の他、25m×5コースの屋上プールを設けている。

先般、給食の会食を兼ねて教育委員に視察していただいた泉中学校に隣接して、左側に小学校の校舎、奥に体育館を配置している。校舎の中央部分には広見をモチーフとした広い空間を設け、小中学校の児童生徒や地域の方々が交流する場とすることを考えている。今後、泉中学校の旧校舎の解体工事を行い、その跡地に泉小学校の運動場を整備する。解体が完了する秋以降、運動場の整備工事に着手し、完成は来年3月を予定している。

なお、泉小学校と泉中学校の竣工式は4月23日(日)午前10時から執り行いたいと思っている。委員各位の出席をよろしく願いたい。

田邊委員	1 学年のクラス数は。
山田教育総務課長	新年度（予定）は、泉小学校が 580 人、21 学級で、学年では 3～4 学級です。泉中学校は 414 人、通常学級で 12 学級で、学年では 4 学級です。
田邊委員	これからも恒常的に子どもの推移があるのですか。
山田教育総務課長	秋に示した学校規模適正化計画で平成 32 年、平成 37 年の児童生徒推計をしています。ほぼ横ばいと考えています。
野口教育長	金沢市の規模適正化計画の中に示されている数からの読み取りですね。

○ 報告第 8 号 平成 28 年度児童生徒の体力・運動能力調査の結果について（学校指導課）

（説明の概要）議案書 10 ページと別添資料。本市ではこれまで、児童生徒の体力・運動能力調査の結果を各項目の数値の大小によって比較してきたが、石川県が t 検定による結果比較を行っていることから、今年度から本市においても t 検定による結果比較を行うこととした。

まず別添資料の 1. 平成 28 年度の市平均と県平均との比較では、長座体前屈が中学校の全ての学年男女で県平均を上回り、立ち幅とびは中学校の全ての学年女子で上回った。一方、ボール投げは小学校の全ての学年女子や中学校の全ての学年男子で県平均を下回る結果となった。次に、2. 市平均の平均 28 年度と平成 27 年度との比較では、反復横とび、50m 走、立ち幅とびはほとんどの学年男女で前年度を上回った。一方、ボール投げは小学校の全ての学年女子、中学校の全ての学年男子で前年度を下回る結果となった。3. 総合評価における平成 28 年度と平成 27 年度との比較においては、小・中学校ともに総合評価 A と B を合わせた割合が前年度を上回っている。また、4. 体力合計点における平成 28 年度と平成 27 年度との比較においては、全ての学年男女で小・中学校ともに体力合計点が前年度を上回った。

以上の結果から、本市の体力・運動能力は全体として改善傾向にあるものの、ボール投げにおいては課題があると捉えている。このような状況を踏まえ、本市では体育・保健体育科における学習指導を充実させるために結果を分析し、各校の課題に応じて体力を高める運動を計画的に取り組む必要があると考えている。特にボール投げは十分な改善が見られないことから、これまでの取り組みを見直すなど、学年の発達段階に即したものとなるよう、学校に指導助言していきたいと考えている。

児童生徒が運動に興味を持ち、継続して運動に取り組むことができるよう、本市の体力向上支援事業や運動部活動地域指導者派遣事業の活用を通して、小学校では休み時間などを有効に利用し、中学校では部活動等への取り組みが一層充実するよう、教育活動全体で体力の向上を図っていく必要があると考えている。さらに、子どもの体力・運動能力向上推進事業を活用し、各校だけの実践ではなく、中学校区で共通する課題を改善するための小中が連携した共通実践を行うなど、体力の向上に向けた中学校区における PDCA サイクルを確立し、生きる力の土台である体力向上強化を図っていききたいと考えている。

河野委員	柔軟性が非常に高いことやボール投げが苦手であることの原因分析はされていますか。
西川学校指導課長	これまでも各学校の結果を基に、特色ある取り組みを推進してきましたが、ボール投げについてはなかなか改善傾向が見られません。これについては、他の種目に比べて、運動経験の有無が大きく結果に反映される種目であるため、子どもたちの生活環境等の大きな変化から、日常生活の中で思いきり物を投げるダイナミックな遊びがなかなかできていないことが大

きな要因だと思っています。まず学校の体育の授業を充実させながら、子どもたちにいろいろな運動を経験させて、体全体をバランス良く操作できる力を、学年の発達段階に応じた中で育てていくことが大事だと考えています。

長座体前屈はなぜか分かりませんが、金沢市はずっと非常に高い傾向にありました。逆に、反復横とびや 20m シャトルランといった持久力を問う種目については、以前は非常に低い結果でしたが、各校で年間を通した継続的な取り組みを行う中で、成果が上がってきた項目ではないかと考えています。

丸山委員

県のデータを過去 5 年で比較すると、総合評価がずっと上がってきていて、金沢市も昨年度と比較すると、かなり上がっていると思いますが、総合評価がこれだけ上がったのは何か取り組みをされたからでしょうか。

西川学校指導課長

平成 11 年ごろ、私が県で担当していたときは、県全体も全国より非常に低い状態にあり、県として体力向上が大きな課題に挙げられていました。そこで、いろいろな事業を進めていく中で、全ての学校が児童生徒の実態に合わせて体力アップの授業に取り組み、その粘り強い取り組みの成果がこのように出てきました。今では県も金沢市も、体力については全国と比べて非常に高いことが実証されており、これは学校現場と委員会等が一緒になって粘り強く取り組んできた成果だと思っています。ただ、金沢市においては、全国的な傾向もそうですが、ボール投げはまだまだ取り組みを工夫していく必要があると思っています。

丸山委員

ボール投げは県も低かったのも、県全体として言われていることだと思いますが、例えば体育の授業のウォーミングアップに必ずボール運動を入れるなどの工夫をしていかないと、放っておいてもなかなか上がらないと思うので、それも対策を入れていかなければならないと思います。

西川学校指導課長

小学校の子どもたちは休み時間によくドッジボールをして、ボールを投げる経験は豊富ですが、実態を見ると、子どもの手の大きさにそぐわないボールを使っているのも、子どもたちがうまく握れない中での投動作を経験しています。本市では、小学校に 5 年計画でいろいろな体育用具を支援することにしており、その中で子どもたちの手のひらに合うものを各校に提供してきたので、場と用具の工夫をしていくことも子どもたちの体力向上にとって大事な観点だと考えています。

岡委員

ボールの肩の抜け方をきちんと指導すれば、一遍に全員がクリアすると思います。少しのコツで砲丸投げやボール投げは違ってくるので、よろしくお願いします。

西川学校指導課長

全ての学校が取り組んでいるわけではありませんが、各校の取り組みの中でも、押野小学校は外部の専門家や大学生に来ていただいて、適切な投げ方を実際に子どもたちの目の前で見せてイメージさせ、その際にコツも指導することで遠投力が上がったという実績も聞いています。今後は積極的に外部の人材にもご協力いただきながら進めていくことも大切だと考えており、各校に声掛けしていきたいと思っています。

田邊委員

モデルケースのようなことを皆さんに周知していただければ参考になると思います。例えば投げ方であれば iPad で分析するなど、個々の授業での取り組み方もかなり響く部分があるでしょうから、そういうモデル的なものを市内の先生方で共有するのも一つの方法かと思っています。県と比べると、県全体はかなり高いですが、市でもそこそこ取り組んで、その成果が現在

の状況だと思えます。これまでのそれぞれの取り組みも功を奏している面はあると思えますが、課題に対してこんなモデルがあるということを知っていただければ、先生方の取り組みや授業での参考になるので、ぜひそういう情報共有の場で伝えてほしいと思えます。

西川学校指導課長

各学校の取り組みを共有することは非常に大事です。今年度、スポーツ庁がまとめた「体力・運動能力、運動習慣等調査」の中では、各県の学校における取り組みが紹介されています。その中で浅野川中学校の取り組みを取り上げていただき、高い評価を受けました。今年度、国へ行って、幾つかの学校の代表という形で取り組みの報告もあるので、その内容等についても他の学校にお知らせしていきたいと思っています。

野口教育長

別添資料の右ページに、平成 28 年度と平成 27 年度の比較の表が上下にあり、総合評価と体力合計点という項目がありますが、この内容を説明してください。

西川学校指導課長

対象は小学 4 年生から中学 3 年生と、ここには載っていませんが、市立工業高校の生徒で、性別と学年に応じて、各種目の記録に対する点数が国から全国共通で示されており、全種目の点数合計によって A～E の 5 段階評価をすることができます。それらをまとめたものが A～E の総合評価です。同じような形で、学年の点数も記録から数値化できるので、平成 27 年度、平成 28 年度の児童生徒の得点の平均値をここに示しました。

野口教育長

総合訪問で教育委員と学校の先生方が懇談したときにも、とにかく学力ばかり話し合われがちですが、体力もないと相乗効果として学力は伸びていかないと思えます。「知・徳・体がバランスよく」とよく言われますが、ぜひ体力づくりについても力を入れていきたいものです。

○ 報告第 9 号 家庭教育に関する指針及び金沢市家庭教育推進プログラムについて(生涯学習課)

(説明の概要) 議案書 12 ページ。1. 趣旨としては、本市の目指すべき家庭教育の在り方を検討するため、家庭教育推進懇話会を設置し、議論を重ねてきた。このたび懇話会から提出された「金沢市における家庭教育の推進に関する提言」を受け、家庭教育に関する指針及び金沢市家庭教育推進プログラムを策定した。

2. 検討経過としては、懇話会を昨年 5 月から本年 2 月にかけて 4 回開催し、この間に保護者対象の意識調査、総合教育会議や社会教育委員会会議での意見交換を行い、検討結果を取りまとめた提言が、2 月 23 日に懇話会から教育長へ提出された。

3. 家庭教育に関する指針の(1) 目的は、「めざすべき金沢の子ども像」を実現し、「金沢子どもかがやき宣言」を実践する子どもを育むため、家庭で意識してほしい「大切なこと」を示し、家庭教育の一助としてもらうことである。(2) 内容は、タイトルについては 12 月の総合教育会議の時点では「8 箇条」という表現を用いていたが、少し堅いという意見もあったので、「家庭で子どもを育むための 8 つのすすめ」としている。また、以前は前文と 8 条からなる本文、後文の構成だったが、後文を前文に集約して簡潔にまとめ、「家庭は教育の出発点であり、子どもの心のよりどころです。子どもが安らぎを感じながら健やかに成長できるよう、かつて大人自身が家族のふれあいの中から教わった『大切なこと』を、子どもに伝えましょう」としている。なお、八つの本文の内容はこれまでと大きな変化はないが、第 2 条の「きちんと守ろう 社会のルール 大人が手本」の説明文で、「子は鏡」となっていたのを「子は親を映す鏡」と改めている。

4. 金沢市家庭教育推進プログラムについては、家庭教育に関する指針を保護者へ浸透させ、その実践を支援するため、三つの柱からなる各種事業を体系化し、推進するものである。事業期間は平成 29～33 年度の 5 年間とし、「目標とする指標」を設定し、計画的に事業を実施する。まず

一つ目の柱「学習機会の効果的な提供」では、親の学びあい講座の開催、研修ファシリテーターの養成など7事業に取り組み、家庭教育の重要性を効果的に意識付けるとともに、顔の見えるつながりの形成を推進する。二つ目の柱「家庭教育に関する情報提供の充実」では、家庭教育に関する指針の周知、ホームページの充実など5事業に取り組み、家庭教育に役立つさまざまな情報を提供するとともに、家庭教育に関する指針を広く知ってもらい、意識付けを促していく。三つ目の柱「地域、家庭、学校等との連携による支援」では、地域学校協働活動の推進、放課後子ども教室の実施など5事業に取り組み、地域、家庭、学校とが一体となり、地域ぐるみで子どもを育む取り組みを支援する。これら三つの柱からなる各事業を相互に連携させながら展開し、家庭教育の推進に努めていく。

大島委員

私も懇話会に何回かオブザーバー参加し、議論を聞かせていただきましたが、各団体・分野の委員からいろいろな素晴らしいご意見等がありました。特に「8つのすすめ」の内容について、保護者が主体としてどう動くべきかという具体的な部分までしっかりと盛り込まれていました。各学校には単位PTA・育友会があるので、その認知をしっかりといただき、連携していただくと広がりがあるのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

小寺生涯学習課長

この指針を保護者の皆さんに浸透させるには、PTAや育友会の協力がなければいけないので、市のPTA協議会とも連携を図りながら、まずはPTA会員を対象にした研修会の場でこの指針について説明したいと考えています。また、各単位PTA等で実施している家庭教育学級や懇談会の場でも、この指針や指針を基に作成する教科等を活用していただけるように取り組んでいきたいと思っています。

田邊委員

保護者の観点から見ると、家庭教育の重要性は重々理解されていると思いますが、子どもの発達段階を考えると、子育て支援の段階があり、これから徐々に学ぶところに向かうような発達段階があります。家庭教育での指針を考えた場合、子育て段階とのつながりや連携を持つような取り組みが不可欠だと思います。親の学びあい講座を開催して浸透するという取り組みの中に子育て段階を巻き込み、早い段階からの取り組みを行政団体と連携しながら進めていただければ、より一層意味が浸透すると思いますので、そのあたりもぜひ取り組んでいただきたいと思っています。

小寺生涯学習課長

親の学びあい講座を実施するに当たり、段階に応じた研修教材を開発し、小中学校の家庭教育の研修の場はもちろん、地域での子育てサロンや図書館での交流会など、子育てに関わるさまざまな活動の場に出向いて、指針の周知・浸透を図っていききたいと思っています。

○ 報告第10号 金沢市宇宙教育推進計画について（生涯学習課）

（説明の概要）議案書15ページ。1.趣旨としては、本市のさらなる宇宙教育の推進について今後の在り方を検討するため、「金沢市宇宙教育推進懇話会」を設置し、有識者による議論を重ね、懇話会から提出された提言を基に、「金沢市宇宙教育推進計画」を策定した。

2.概要としては、「宇宙分野での貢献を本気でめざす人材の育成」と「広く市民が宇宙に興味を持てる環境づくり」の二つのテーマの下、3カ年計画で宇宙教育を推進する。まず、「宇宙分野での貢献を本気でめざす人材の育成」のために、「宇宙に学ぼう」プロジェクトを三つの柱で推進する。「(1)宇宙に学びたい人への環境づくり」では、従来の宇宙塾を統合・再構成して「金沢宇宙塾」とし、継続して系統的な学びができるようにする。「(2)関係機関との連携」では、新たに国立天文台との協定を締結し、天文学分野での専門的な教育のサポートを受けるとともに、関係諸団体との連携強化を図っていく。「(3)ボランティアの発掘、配置」では、専門分野の豊富な知識

や経験を持つボランティアを、ホームページや Facebook 等の SNS による情報発信により発掘し、配置する。

次に、「広く市民が宇宙に興味を持てる環境づくり」のために、「星を楽しもう」プロジェクトを四つの柱で推進する。「(1) 足を運びたくなる銀河の里キゴ山」では、老朽化が進む天文学習棟のプラネタリウムをリニューアルし、教育環境の充実と施設の魅力向上を図る。また、プラネタリウムの見学と季節の自然体験活動をセットにした無料プログラム「ぷらっとキゴ山」を新設する。「(2) 『青少年が宿泊できる科学館』をめざして」では、天文学習棟の展示物のリニューアルを検討し、フロアごとに「天文」「宇宙工学」「里山」の分野に分けた展示内容に見直すことで、施設の魅力向上につなげていく。「(3) 星を楽しめるサテライト講座」では、市内 3 地区に星空観望の拠点を設け、気軽に星空を楽しめる機会を提供するとともに、「星のインタープリター」制度を整備し、サテライト講座等での星空の解説員として活動できる体制づくりを進める。「(4) 新ホームページの開設」では、市民の宇宙への関心を高めるための視点からホームページを新たに作成し、宇宙の魅力を発信していく。新年度から本計画に基づき、青少年の夢と希望を育む宇宙教育を推進する。

河野委員	とても興味深い内容ですが、情報をどのように発信していくか、具体的に考えていることがあれば教えてください。
小寺生涯学習課長	ホームページや SNS でボランティア発掘のための情報などを発信していきます。それから今年度、新たに天文学習棟のパフレットを作成したので、いろいろなところに配布しながら PR していきたいと思います。
河野委員	パンフレットはあまり見ることがないのですが、学校等には周知されるのでしょうか。
小寺生涯学習課長	各学校等にも配っています。イベントを実施する場合は、学校を通じて各家庭に案内する予定です。
河野委員	お金はかかるかもしれませんが、例えばテレビなど、一般的に広く伝わるものにコンテンツを乗せる工夫があればいいと思います。私に何か構想があるわけではありませんが、広報は非常に重要だと思うので、新たな工夫を考えていただければと思います。
川原生涯学習部長	良いアイデアで事業を展開しようと思っても、広報が下手だというのは以前からご指摘を受けるところで、その辺は改めていかなければならないと思います。ご指摘のとおり、適切な広報の仕方によっては、より浸透できると思います。例えば、庁舎前広場にできているデジタルサイネージを活用することなども考えながら、適切な広報について検討していきたいと思います。
野口教育長	一つ提案ですが、プラネタリウムが更新されるという話がありました。平成 10 年 10 月にキゴ山がオープンしたときに、当時としては最先端のプラネタリウムが入り、多くの人に来ていただきましたが、プラネタリウムが変わるときには当然いい機種になるでしょうから、そのときに併せて広報を行ってはどうかでしょうか。それから国立天文台と協定を結ぶので、その折に併せて広報するなどしていくと効果的だと思います。市の広報にもお願いしながら、テレビを使うことも可能だと思うので、知恵を絞って広報に努めていただきたいと思います。
小寺生涯学習課長	テレビやラジオ、新聞等のマスメディアを精一杯活用して広報に努めたいと思います。

岡委員

キゴ山のセンターが活動の中心になると思いますが、まちなかから少し離れているので、せっかくいい施設があっても、生徒たちには学校を通して伝わっているとはいうものの、一般には伝わりにくいと思います。キゴ山へ行くバスぐらいはお金を出して、宇宙の絵をたくさん描いたバスにするなど、まちなかでキゴ山のセンターのことが感じられるような仕掛けをされてはどうかと思います。私が属している伝統工芸の分野もまちなかへと盛んに言っていますから、この分野もまちなかに知らせるような方向を少し予算付けして頑張ってもらえればと思います。

野口教育長

キゴ山では毎週金曜日に星見の会を開いていますよね。かなり多くの人たちが見えていて、定着したと思いますが、キゴ山はある程度距離もありますし、移動手段がなかなか難しい面もあります。その点では、サテライト講座やマンパワーの確保につながる星のインタープリター制度がうまく動けば、まちなかで多くの子どもたちや大人の方々が星に親しむ環境が整うと思うので、インタープリター制度をうまく運用してほしいと思います。キゴ山の職員は人数が限られていて、他の仕事もあるので、職員が多忙にならないような配慮も十分に必要だと思います。これも知恵を絞って進めたいと思います。

田邊委員

関心のある人は大いに関心を持って関っているし、率先して足を運ぶと思いますが、まちなかでは明かりが妨げになって星を見る場所が限られてしまいます。でも、身近なスポットを紹介したり、サテライトでアナウンスしたり、少し足を運べばこういうことができるという導きの情報など、宇宙に関心を持つ入り口として身近なところに働きかけるような案内に取り組めば、身近なアクセスの機会になると思います。

もちろん学校での利用を促進しながら、ステップを踏むことも大切でしょうし、今までも取り組んでいるとは思いますが、身近にそういう場所があるということを紹介するだけでも足がかりになると思います。県の子ども交流センターで紹介されている中で、星空のきれいな写真をどこで撮ったのかと聞くと、角間の駐車場で撮るととてもよく見えるとおっしゃっていて、意外と身近な所にそういう場所があるのかなと思います。キゴ山に行かないとできないこともあると思いますが、最寄りの場所でも絶好の場所があるかもしれないので、そういう情報も集約して使うといいと思います。

野口教育長

星をきれいに見ようと思うと、光を背中に背負うことが大事です。正面に光を持ってくると見えにくくなるので、場所を考えて見ることも取り入れたらいいと思います。今の話は夜の話ばかりでしたが、例えば大乘寺山の丘陵公園などでは、とてもきれいな夕日を見ることができ、太陽が沈むときに太陽の色が変わったり、形が変わったりして見えるのでとても感動します。そういう場所もホームページで紹介すると思います。

○ その他 (1) 金沢市立工業高等学校の活動状況について (平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月)

(説明の概要) 議案書 16 ページ。まず、資格取得状況である。技能検定については、難関資格である 2 級の普通旋盤作業に 4 名、フライス盤作業 1 名、電子機器組立て作業 2 名、配電盤・制御盤組立作業 3 名の合計 10 名が合格した。中でもフライス盤作業については、高校生としては県内初だった。一昨年が 3 名、昨年が 6 名で、年々増加している。

3 級については、普通旋盤作業に 4 名の他、9 種目で合計 90 名が合格している。その他、危険物取扱者試験などご覧の通りである。これらを含めて全学年で延べ 1,054 名が資格を取得した。また、全国工業高等学校校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度では、特別表彰で 4 名、そ

の下のゴールド 11 名、シルバー 26 名で、これについては昨年並みだった。昨年度は一昨年度よりも良かったので、良い状況が続いている。来年度も、2 年目となる金沢型工業教育モデルの実践の取り組みとして、引き続き難関資格をはじめとする資格取得を促していく。

続いて、コンテストについて主なものを挙げた。全国工業高校長協会が主催する高校生ものづくりコンテストは、木材加工部門の北信越大会で優勝し、北海道で開催された全国大会に 2 回目となる出場を果たした。残念ながら入賞は逃したが、生徒たちにとって全国レベルで競い合う貴重な体験となった。

部活動についても主なものを挙げた。文化部関係では、メカトロニクス部が本市で開催された全国産業教育フェアの併催事業である全国高校ロボット競技大会に石川県代表として出場したほか、ご覧の成績を収めた。運動部については、全国高等学校選抜大会で弓道部が個人準優勝したほか、相撲部、バドミントン部も出場している。相撲部については 2 月に開催された全国選抜高校相撲弘前大会において団体準優勝と個人優勝に輝いた。団体準優勝は昨年が続いてのことである。

その他の活動として、12 月には吹奏楽部が 50 回目の記念となる定期演奏会を開き、OB の演奏家などの参加の下に開催した。今年 22 日には全生徒・教員の参加の下、学校周辺の美化清掃活動を行った。

以上、本年度も部活動や地域貢献活動などの課外活動にも積極的に取り組み、先ほど申し上げた通り、金沢型工業教育モデルの実践の取り組みの中で、協調性や豊かな人間性を育み、ルールやマナーを守る人材教育に資するよう今後とも務めていく。

河野委員

延べ 1,054 名が資格を取得したということで、主に就職希望の生徒だと思うのですが、その生徒はほぼ 100% が資格を取得したのでしょうか。

堂岸市工高事務局長

これは延べ人数で、生徒数は 720 名です。今年 3 月の卒業者の場合、1 学年 240 名の 7 割が就職しました。その 100% が資格習得者という統計はありません。必ずしも資格取得者が就職希望者というわけではなく、工業系の大学に進む生徒が資格取得した場合もあり、全校で資格取得に取り組んでいると理解しています。

野口教育長

平成 29 年度も一層頑張っていけるように期待しています。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名

教 育 委 員 _____ 署 名

(丸山委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第 8 号 金沢市文化財保護審議会の委員の委嘱について（文化財保護課）

金沢市文化財保護条例第 25 条の規定により、下記のとおり金沢市文化財保護審議会委員を委嘱します。

1 委員の委嘱

	氏名	役職名	新再任の別
知識経験を有する者	梅田 和秀	加能民俗の会常任幹事	再任
	太田 昌子	金沢湯涌夢二館館長	再任
	北 春千代	石川県立歴史博物館学芸主幹	再任
	北野 博司	東北芸術工科大学教授	再任
	木下 栄一郎	金沢大学准教授	再任
	鰐 隆弘	金沢美術工芸大学教授	再任
	中森 勉	金沢工業大学教授	再任
	東四柳 史明	金沢学院大学名誉教授	再任
	谷内尾 晋司	石川考古学研究会会長	再任
	山崎 達文	金沢学院大学副学長	再任

2 理由

任期満了に伴う再任

3 任期

平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

以上